

歩行者移動支援の普及・活用の推進【国土交通省】

平成26年度政府予算額 39百万円

施策の概要・目的

歩行者のニーズや属性に応じた情報を適時に提供することにより、高齢者や障がい者を含むすべての歩行者が安全・安心に移動できるシステムについて、複数の地域間で共同利用が可能なモジュール型ソフトの試作版を作成する。これにより、取組を検討している自治体の導入コストを縮減し、全国的な普及を促進する。

ユニバーサル社会の実現に向けて、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが積極的に活動できるバリアフリー環境の構築をソフト施策の面から推進することが重要。このため、位置特定技術と場所情報コード、歩行空間ネットワークデータを利用して、ICT(情報通信技術)を活用したバリアフリー経路案内等の歩行者移動支援を推進。

サービスの内容と仕組み

歩行者移動支援サービスは、様々な場面における利用者の情報ニーズに応え、移動経路や地域情報等を提供できるサービスで、スマートフォン等により情報提供する

歩行者の情報ニーズ

車いすで行ける経路は？
外国語の案内が欲しい
公共交通の運行情報
災害時の情報
等

既に持っている各種情報

バリアフリーマップ
公共施設情報(「暮らしの情報」等)
観光案内・マップ(観光協会等)
店舗、イベント情報(商工会等) 等

ICTを用いた位置特定技術

GPS^{*}、Wi-Fi、ICタグ、無線マーカ 等

ICTを利用するための機器

スマートフォン、アプリ 等

場所情報コード
歩行空間ネットワークデータ

歩行者のニーズや属性に応じた情報の提供

個人の身体的状況やニーズに応じたバリアフリー経路の提供
訪日外国人を含め全ての観光客に対応した観光地情報の提供

(※歩行者移動支援サービスにおける位置特定に衛星測位等を活用)

サービスを支える歩行空間ネットワークデータ

歩行空間ネットワークデータが整備されると、階段、道幅、段差等を避けた、個人の身体的状況やニーズに応じたバリアフリー経路の検索が可能

【健常者】

最短ルートを希望

現在位置の情報により、最短ルートの情報が届く

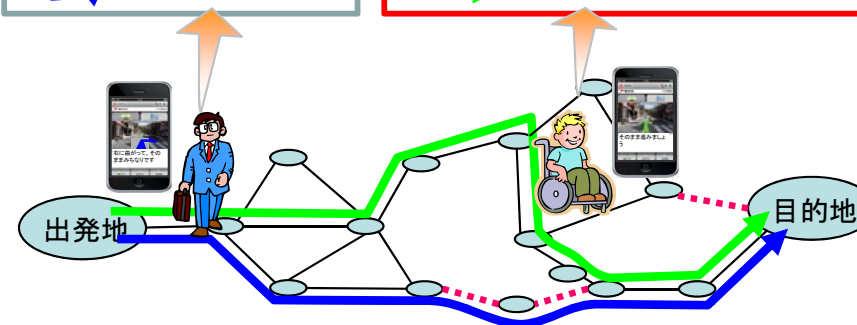
➡ : 最短ルートの案内

【車いす使用者等】

段差等を回避するルートを希望

現在位置の情報と利用者の属性、ニーズに合わせて、段差等が少ないバリアフリーの経路案内情報が届く

➡ : 段差の少ないルートの案内



進捗状況(スケジュール)

平成26年度: 導入を検討する複数の地域間で共同利用可能なモジュール型ソフトの試作によりコスト縮減を図るなど、全国的な普及を促進。

平成28年度: 各地域で共通的な利用ルールの策定やモジュール型ソフトの提示等により、先進的な自治体等による自発的な活用拡大を図る。

平成32年度: オリンピック・パラリンピック東京大会を契機に、歩行者移動支援サービスの全国的な普及・展開を図る。

各省との連携状況

最新技術情報を相互に共有【総務省】